

多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル : 宮川堤(土木遺産)の改修工事		
水系 / 河川名 :	宮川水系 / 宮川	河川分類 : 大河川
河川の流域面積 :	920km ²	整備計画流量 : 7300m ³ /s(W=1/5) セグメント : 2-1
事業 :	河川改修	事業開始年度 平成25年度
目標設定 :	定性的	段 階 : D(実施・施工時)
課題・目的(主な): 水辺へのアクセス改善、その他		
工 法 (主 な) : 築堤、護岸整備、樹木伐採、除根、移植、植樹、管理用道路の整備、その他		
配慮事項(主な): 河川景観への配慮、歴史・文化への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

宮川桜堤は、歴史的土木遺産、文化遺産を内在し、名勝指定を受けた景勝地であるが、堤防断面が不足するため、早急に堤防を強化する必要がある。

<目標設定>

次回の式年遷宮を迎える頃には、見ごたえのある「平成の桜堤」を！

- まちづくりと一体となった堤防改修
- 歴史的なもの、今ある良いものを大事にしてい
- 時間の経過に伴う風景の変化を見越した堤防整備



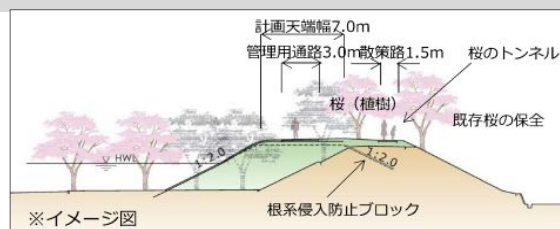
取り組み内容・対策例

1) 歴史的に形成されてきた桜堤の景観の保全と継承

宮川桜堤の改修は、桜や歴史、文化的景観に優れた空間構造を最大限、保全、継承しながら堤防を強化するため、堤防強化(堤防拡幅)、歴史的土木遺産(突出し堤)の保全活用、桜堤の景観保全の3つのバランスを図る計画とした。

2) 住民参画による改修計画の策定と合意形成

改修計画を策定するにあたり、これまで地元関係者相互の意見調整を行い、パブリックコメントや地元説明会等を丁寧に実施し、市民意見を改修計画に反映させ、住民参画による地域の合意形成を図った。



- ・移植可能な桜は移植し、突出し堤を活用して桜を保全した。
- ・堤防定規断面外に桜を補植し、桜のトンネルを再現した。
- ・強化護岸で堤防の安全性を確保しつつ緑化を図った。
- ・歴史文化、魅力を高める素材(自然石、舗装)を活用した。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<整備効果>

三重河川国道事務所では、平成25年度より工事着工し、平成28年度に(一部区間を残し)完成した。

桜の補植や現場見学会の開催等、改修工事中においても地域住民の参画の場を創出した。

約20年後の式年遷宮に向け、桜堤としての景観が形成されつつあり、宮川堤は、歴史的土木施設として高評価を認められ、「平成28年度土木学会選奨土木遺産」に認定されました。

<今後の対応>

今後は「宮川桜堤の保全・利用促進協議会(仮称)」で学識経験者や地元関係者の方々から助言・意見ろいただきながら、美しく安全な宮川堤を保持し、観光利用の促進を図っていく予定。



備考

問い合わせ先	中部地方整備局 河川部 河川工事課
電話番号	052-953-8153

宮川堤（土木遺産）の改修工事

Keywords : 地元住民の合意形成, 良好な景観, 地域の歴史・文化



委員会、協議会、地元説明会等を通して意見・要望を徴収し、それらをできるだけ反映することで、地元住民の満足度の高い改修計画とするよう努め、堤防強化・歴史的な土木文化遺産の保全・桜景観の保全の三つのバランスを重視した改修工事を行った事例である。